



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月11日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所 名
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日~平成26年6月30日) (百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	705	△8.3	△11	—	△13	—	△16	—
26年3月期第1四半期	768	8.4	△1	—	△2	—	△5	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △16百万円(—%) 26年3月期第1四半期 △5百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△4.06	—
26年3月期第1四半期	△1.38	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	983	9	1.0
26年3月期	848	△22	△2.7

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 9百万円 26年3月期 △23百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,708	5.8	57	—	53	—	46	—	11.69
通期	3,292	7.3	54	—	47	—	32	—	8.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

- 新規 — 社(社名)、除外 — 社(社名)
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	4,464,700株	26年3月期	4,434,700株
----------	------------	--------	------------

- ② 期末自己株式数

27年3月期1Q	0株	26年3月期	498,500株
----------	----	--------	----------

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	4,127,524株	26年3月期1Q	3,896,200株
----------	------------	----------	------------

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府が推し進める積極的な経済・金融政策により、景気は緩やかな回復基調となっておりますが、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動や海外景気の下振れ等、今後も厳しい経営環境が予想されます。

このような環境のもと、当社グループはヒロタ・イルムス両事業におきまして、直営店強化や流通・法人部門を中心に、新商品の投入を含めた商品構成の見直し、人材教育による販売力強化及び経営改善計画の達成を目指し取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高705,047千円（前年同四半期比8.3%減）、営業損失11,781千円（前年同四半期は1,238千円の営業損失）、経常損失13,209千円（前年同四半期は2,028千円の経常損失）、四半期純損失は16,760千円（前年同四半期は5,365千円の四半期純損失）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

ヒロタ事業

直営部門におきましては、新商材クラッシュアイスバーの投入とオリジナルシュークリームの新商品ブラッシュアップを図り、また4月に飯田橋メトロ店、7月には日比谷店の改装を行い、ヒロタの売上拡大によりブランド価値を高めてまいりました。当第1四半期連結会計期間末の総店舗数は、38店舗となりました。

ホールセール部門におきましては、新発売90周年シューアイスの投入によるアイスの強化、更なる全国エリアの取先拡大を図りましたが、4月からの消費税増税の影響を受け、売上高は前年同四半期を下回りました。

この結果、売上高463,919千円（前年同四半期比9.2%減）、営業損失1,020千円（前年同四半期は、27,789千円の営業利益）となりました。

イルムス事業

直営店舗におきましては、各店舗の売上拡大を目指し、新規MD体制の構築をいたしました。また、新規人材採用において既存店と本部体制の強化を図りました。コーポレート部門につきましては、イルムスデザインによる限定商品であるパナソニック掃除機など、ブランド力を活用したコラボレーションによる売上の拡大に努めてまいりました。営業利益は消費税増税に伴う駆け込み需要の反動などの影響を受けたものの、本部経費の削減により前年同四半期と比べ16,717千円改善いたしました。

なお、当第1四半期連結会計期間末の総店舗数は、13店舗となりました。

この結果、売上高は241,128千円（前年同四半期比6.5%減）、営業損失は185千円（前年同四半期は16,903千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ134,997千円増加し、983,662千円となりました。これは主に、流動資産が139,630千円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ102,517千円増加し、973,813千円となりました。これは主に、流動負債において買掛金が63,665千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ32,480千円増加し、9,849千円となりました。これは主に、自己株式（103,923千円）を全額処分したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月13日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、ヒロタ事業・イルムス事業において、経営改善計画を策定し実行してまいりましたが、当第1四半期連結累計期間において、営業損失11,781千円、経常損失13,209千円、四半期純損失16,760千円を計上しております。また、前連結会計年度末時点において22,630千円の債務超過となり、株式会社名古屋証券取引所セントレックス市場の上場廃止基準にかかる猶予期間に入りました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような重要事象等が存在していると認識しておりますが、この事象を解消し、又は改善するための対応策は以下の通りです。

財政状態の改善及び資金調達につきましては、資本増強策の一環として平成26年2月14日付の取締役会において、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社を引受先とした新株予約権(960,000株相当)の発行を決議し、当第1四半期連結会計期間末現在で70,000株相当の行使がされております。さらに、平成26年5月29日付で株式会社ページワンを引受先とした第三者割当により自己株式498,500株を価額総額46,360千円で処分し、当第1四半期連結会計期間末において、当該債務超過は解消しております。

また、両事業において業績回復の兆しが見られ、今後、財務面につきましても業績回復と連動した改善が見込め、また保有している資産等の売却やワラントの引き受け予定先の検討を開始しており、当第1四半期連結会計期間末において、継続企業の前提に重要な不確実性はないものと判断しております。両事業における主な施策は以下の通りです。

ヒロタ事業

株式会社洋菓子のヒロタは、90周年を迎え、最大の強みであるシュークリーム・シューアイスの定番商品の更なる売上拡大と共に、様々な異業種とのコラボレーションによる新商品開発や90周年イベント商品を積極的に推進し、既設店舗は順次改装を行い、ヒロタのブランド価値を高めてまいります。

- ① 夏季限定直営店舗の拡大・選別及び改装を含めた既設店舗の活性化
- ② ホールセール部門の海外も含めた取引先の拡大及び自社サイト開設によるネット売上の拡大
- ③ 千葉工場における工場稼働率のアップ及び新たな設備投資による新商品の開発

イルムス事業

株式会社イルムスジャパンは引き続き大型直営店舗である梅田店、日本橋店の売上拡大の為に諸々の施策を実行し、コーポレート部門につきましては、ブランド価値を相互に高める様々な業種とのコラボレーションを更に拡大し、通期の営業黒字化21百万円を目指します。

- ① 直営店舗でのショッピングインショップの導入による売上拡大とコスト削減
- ② 梅田店、日本橋店の卸売部門の強化
- ③ コーポレート営業での他企業とのコラボレーションによる新規案件の獲得増
- ④ 小ロット、高収益なオリジナル商品の開発強化によるイルムスオリジナリティの確立とライフスタイルの提案

当社グループといたしましては、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しておりますが、上記の各施策を確実に実行することにより、資産超過が継続し、業績の改善が図られるため、資金繰り面での懸念もなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しておりますので、四半期連結財務諸表の注記には記載しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	76,578	144,429
売掛金	225,002	253,288
商品及び製品	92,392	113,223
仕掛品	1,566	1,749
原材料及び貯蔵品	28,849	30,093
その他	14,134	35,112
貸倒引当金	△450	△190
流動資産合計	438,074	577,705
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	160,302	156,261
その他	130,155	127,935
有形固定資産合計	290,457	284,196
無形固定資産		
のれん	4,380	4,037
その他	29,753	28,517
無形固定資産合計	34,134	32,554
投資その他の資産		
その他	86,868	85,410
貸倒引当金	△3,908	△3,708
投資その他の資産合計	82,960	81,702
固定資産合計	407,552	398,454
繰延資産		
株式交付費	3,037	7,503
繰延資産合計	3,037	7,503
資産合計	848,665	983,662
負債の部		
流動負債		
買掛金	172,618	236,284
短期借入金	30,371	29,529
1年内返済予定の長期借入金	47,077	44,359
未払法人税等	13,966	16,777
未払金	299,958	315,414
未払費用	93,754	97,943
その他	83,820	104,335
流動負債合計	741,567	844,643
固定負債		
長期未払金	87,808	88,123
資産除去債務	28,638	28,097
その他	13,282	12,949
固定負債合計	129,728	129,170
負債合計	871,295	973,813

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	101,931	103,379
資本剰余金	495,319	439,204
利益剰余金	△516,482	△533,242
自己株式	△103,923	-
株主資本合計	△23,155	9,342
新株予約権	524	507
純資産合計	△22,630	9,849
負債純資産合計	848,665	983,662

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	768,499	705,047
売上原価	364,026	333,323
売上総利益	404,473	371,723
販売費及び一般管理費	405,711	383,505
営業損失(△)	△1,238	△11,781
営業外収益		
受取配当金	30	-
貸倒引当金戻入額	100	200
その他	277	79
営業外収益合計	407	279
営業外費用		
支払利息	1,188	938
株式交付費償却	-	682
その他	8	86
営業外費用合計	1,197	1,707
経常損失(△)	△2,028	△13,209
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,028	△13,209
法人税、住民税及び事業税	3,441	3,883
法人税等調整額	△104	△332
法人税等合計	3,336	3,550
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△5,365	△16,760
四半期純損失(△)	△5,365	△16,760

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△5,365	△16,760
包括利益	△5,365	△16,760
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△5,365	△16,760
少数株主に係る包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	510,706	257,792	768,499	—	768,499	—	768,499
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	510,706	257,992	768,499	—	768,499	—	768,499
セグメント利益又は損失 (△)	27,789	△16,903	10,886	—	10,886	△12,124	△1,238

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△12,124千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	463,919	241,128	705,047	—	705,047	—	705,047
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	463,919	241,128	705,047	—	705,047	—	705,047
セグメント利益又は損失 (△)	△1,020	△185	△1,206	—	△1,206	△10,575	△11,781

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△10,575千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。